

平成 29 年 11 月 25 日(土)13:00 より、県立脳血管研究センター講堂にて平成 29 年度医療画像情報研修会が開催された。当日は悪天候にもかかわらず、会員 29 名、賛助会員 4 名、非会員 2 名に講師が加わり、計 36 名と多数の方々にご参加いただいた。

ユーザー発表では細川凌会員より自施設における Microsoft OneNote を用いた業務管理について発表していただいた。新病院開院に伴い整備されたタブレット端末や個人の携帯端末を用い、Microsoft OneNote を使用した業務管理を詳しく説明いただいた。紙ベースで行われていた申し送りを全てデジタルデータでやり取りされ、業務のスリム化が図られ大変有効な手段と思われた。ただ質疑のなかで、無料ソフトの容量や個人の携帯端末からもアクセスできることなどによるセキュリティや倫理規定の問題など、今後クリアにする必要がある事項について追加発表を期待したいと思う。

情報提供としてベンダー 2 社よりご講演いただいた。富士フイルムメディカル(株)森修倫先生より PACS 更新に備えて覚えておきたい知識と題して、VNA:Vendor Neutral Archive についてお話いただいた。増大する画像データなどを長期的・集中的に単独で管理する統合アーカイブで、システム更新時の課題となる新旧 PACS 間のデータ移行が上要となり、地域医療においてデータ共有も可能でストレージも SAN モデルと NAS モデルがあり自由なシステム設計が可能な非常に素晴らしいシステムであると感じた。

EIZO(株)新田雄司先生より改定された医用画像表示モニタの品質管理に関するガイドラインに関してガイドラインの変更点や重要点、自社の取り組みについてお話いただいた。管理グレードの 1A が追加されより精度を求められるようになったことや医用モニタ品質管理責任者の選任など厳しくなった印象が強く感じられた。品質管理試験などの方法も中央一元管理ができるようなシステムがあればという意見もあり、今後のシステム開発に期待したいと思われた。管理を技術料として新規に要望したいということで今後を見据え、品質管理の重要性を感じた。

私のデータ処理方法として村田崇会員より DEXA 法による体組成測定とサルコペニアについてご講演いただいた。四肢筋量指数といくつかの項目の相関を調べ、データの扱いによっては分析結果に違いが発生したが発表され重回帰分析にもチャレンジしたいとのことだったので、追加報告を期待したい。

また工藤和也会員より重回帰分析って使える?～秋田県内における CT 装置の被曝線量調査から～と題してご講演いただいた。重回帰分析を用いることで、複数の関連項目から関連性の強い項目を探す労力を減らすことが出来、項目を絞り込んで再分析する、Excel の分析ツールにも実装されている、R などの無料統計ソフトもあるなどの利点を挙げていただいた。是非トライしてみたいという提言であった。

特別講演を頂いた谷川琢海先生は、医療情報の仕事に深く携わり、その観点から統計学の基礎的なお話をいただいた。研究を行うに当たりルールに則って行う必要

があり、統計学も科学的な根拠を示すため上可欠なものであるということであったが、データの収集から取り扱い、検定の方法など大変わかりやすい内容であった。自分自身統計学となると苦手意識から避けていたところがあったが、改める必要があると強く感じた。会員発表についてもコメントをいただき、参加者には大変有意義なお話だったと思う。

今回から研究会の吊称を変更し、広い分野で研修でき、今後も引き続き内容の濃い研修会に発展する事を祈りつつ研修会を終了した。

(文責 岩根)



